

群 教 七	E 03 - 03
	平 15.213集

安全に対する意識を高めて、 大きなけがを防ごうとする児童の育成 —— 相互交流型の保健委員会活動を通して ——

特別研修員 松田 由美子

研究の概要

本研究は、保健委員の児童が全校児童を対象に啓発活動を行い、気をつけて生活しようという意識を高める活動により、大きなけがを防ぎ楽しく学校生活を送ろうとする態度が育つことを実践を通して明らかにしようとしたものである。具体的には、学校生活を送る中で危険な行動があることに気づく活動、どんな時にけがが起こりやすく、どんなことに気をつければよいかを考える活動、自分の生活を振り返り安全に対する意識を高める活動を行った。

【キーワード：学級経営 健康教育 小学校 養護教諭 学校保健 安全教育】

主題設定の理由

学校においては、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程を編成・実施し、家庭や地域との連携を深め、子どもが自ら健康課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に行動できる「生きる力」をはぐくむ教育を推進する必要がある。

本校では、本年度の努力点の一つとして「保健指導、安全指導を徹底し、生命を大切にすることを推進すること」を掲げ、全教育活動において指導に取り組んでいる。具体的には校内救急体制について職員間で共通理解を図り、役割分担を確認し、事故防止や事故の再発防止のための指導を実施している。

児童保健委員会活動においては、これまで、児童集会でむし歯に関する保健劇を行ったり、朝食に関する手作り紙芝居をビデオ放送するなど、健康への意識を高める取組を行ってきた。今年度第1回学校保健委員会では、「校内でのけが」についての議題を取り上げ、保健委員の児童が校内のけがの発生状況を報告し、頻度の高いけがの対処方法についても共通理解を図った。

本校の児童のけがの実態では、ブランコでのけが、廊下を走っていた為、衝突してのけが、階段でふざけて転倒、高鉄棒での落下による骨折等、不注意によるものと危険を回避するための距離感覚、周辺視、状況判断等の認知能力の未発達によるものが多く見受けられる。「保健目標の中で僕は2月が一番好きだな。だって、『外で元気にあそぼう』なんだもん」という2年生の男の子の言葉に象徴されているように本校の児童は外で遊ぶのが大好きである。したがって事故を恐れるあまり、遊ぶことに消極的にならないような配慮も必要である。

そこで、児童の健康課題の解決を図る上では、保健委員の児童が啓発の主体者となり、学校全体に発信していくことが意義あることと考える。

これらのことを踏まえ、安全な学校生活を保障していくことが楽しい学校生活につながる大きな目標であると考え、相互交流型の保健委員会活動での指導を通して、大きなけがを防ごうとする児童の育成を図りたいと考えた。主題を「安全に対する意識を高めて、大きなけがを防ごうとする児童の育成」とし、サブテーマを「相互交流型の保健委員会活動を通して」とした。

研究のねらい

児童保健委員会活動において、学校生活を送る中でけがの起こりやすい場所や行動があることに気づく活動、どんな時にけがが起こりやすく、どんなことに気をつければよいかを考える活動、自分の生活を振り返り、安全に気をつけて生活しようという意識を高める活動により、大きなけがを防ぎ楽しい学校生活を送ろうとする態度が育つことを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 保健委員会活動において、学校生活の中でひやりとした体験の調査を保健委員が「あぶなかったよカード」を使用して行う。危なかったという情報を全校児童に知らせることにより、学校生活を送る中で危険な行動があることに気づくであろう。
- 2 保健委員会活動において、危なかったという情報をもとに保健委員が対策を話し合い、視覚に訴えたポスターを作成し、各教室を巡回し、啓発活動を行うことにより、どんな時にけがが起こりやすく、どんなことに気をつければよいかを考えるであろう。
- 3 「ハッピーセーフカード」を使用して、一日の生活を振り返っていく中で、自己評価を行い、安全に気をつけられたことと危なかったことを記録する。保健委員が回収しカードに賞賛や励ましのメッセージを記入して返却することにより、自分の生活を振り返り、安全に気をつけて生活しようという意識が高められ、大きなけがを防ぐことができるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 大きなけがを防ごうとする児童とは

楽しい学校生活を送るためには病気やけがのないことが大切である。積極的に運動に親しみ、外で元気に遊ぶ一方、どんな行動が大きな事故につながるかを知り、場に応じた行動が選択できる児童ととらえた。

(2) 相互交流型の保健委員会活動とは

これまでの保健委員会の活動はトイレの衛生点検や、清潔調べなどの管理面に重点が置かれ、教師主導型の活動が多く、全校へ広がっていく接点を持った活動が少なかった。そこで、保健委員の児童が自分たちの問題として課題意識を持ち、問題を分析し、話し合い、保健室での活動のみでなく、積極的に教室へ出向き、他の児童と直に向き合って啓発する活動と、発信後相互に交流する活動である。

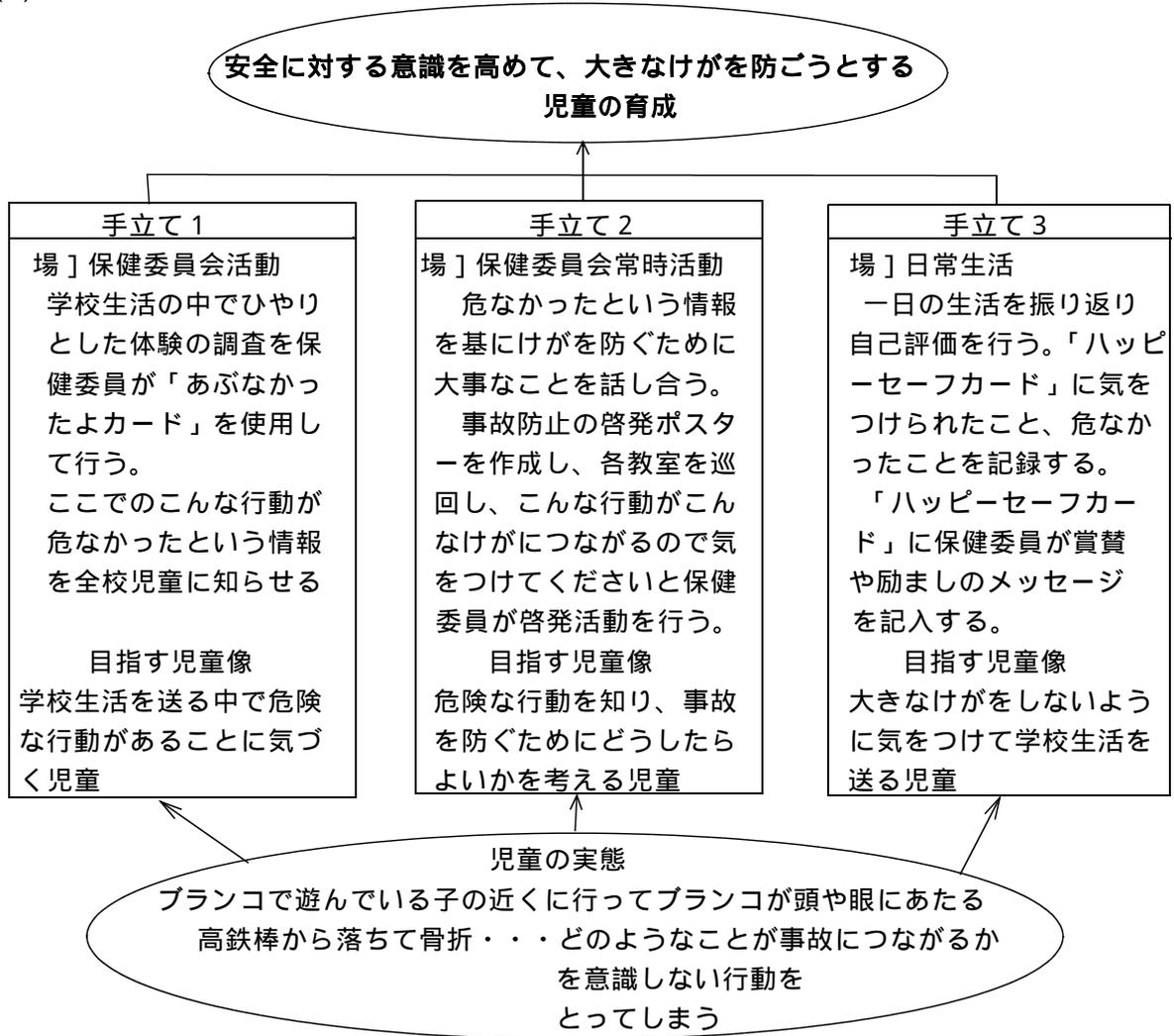
(3) 「あぶなかったよカード」とは

学校生活の中で体験したひやりとしたことや、ドキッとしたこと、危なかったことを記入するカードで、けがが起こりやすい場所と危険な行動を明らかにする資料となるものである。

(4) 「ハッピーセーフカード」とは

自分のめあてをもち、一日の生活を振り返る自己評価するカードである。めあてを達成できた場合は マーク、まあまあできた場合は マーク、できなかった場合は マークを記入し、「こんなことに気をつけられた」、「こんな危険なことがあった」と記入するものである。

(5) 全体構想図



2 実践の概要及び結果と考察

(1) 学校生活を送る中で危険な行動があることに気づくことができたか。(見通し1)

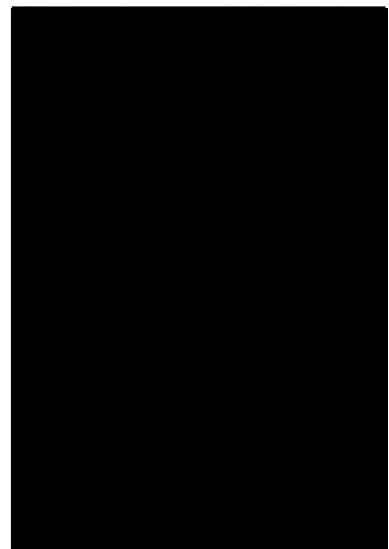
ア 実践の概要

保健委員会活動において、学校生活の中でひやりとした体験の調査を保健委員が資料1の「あぶなかったよカード」を使用して全校児童に行った。その結果は保健室の廊下に掲示した。また、給食時間に校内テレビ放送で結果を知らせた。

イ 結果と考察

低学年では、「校庭」が多く中でも「ブランコでけがをしそうだった」、「けがをした」と記入した児童が最も多かった。中学年では、「ブランコ」が最も多く、次いで「鉄棒」、「一輪車」、「ドッチボール」、「竹馬」、「高鉄棒」、「ジャングルジム」、「サッカー」など遊んでいる場合が多かった。中学年になると行動範囲も広がり遊びも多種になってくるこ

資料1 あぶなかったよカード



とが影響していると考えられる。高学年では、校舎内では「階段」でのことを書いた児童が比較的多かった。教室が最上階となることが理由として考えられる。全校では校庭が187人、校舎内が94人で遊んでいる時や廊下、階段の通行中にひやりとした体験をしている児童が多いという情報を得られた。調査結果をまとめた掲示物の前では、児童が「こんなことしたの！」などと友人と話している姿が多く見られた。また、給食時間の校内テレビ放送の後、保健室を覗いた児童の多くから「先生！保健の放送見たよ！」「すごくよくわかったよ」という声が聞かれた。

「あぶなかつたよカード」を通して、児童はこれまでの学校生活の中で、危険な行動があったことに気づくことができたと思われる。

(2) どんな時にけがが起こりやすく、どんなこと気をつければよいかを考えることができたか。
(見通し2)

ア 実践の概要

「あぶなかつたよカード」からわかったことをもとに保健委員がKJ法を用いて対策を話し合った。さらに、保健委員の児童が各自でこんな行動が危ないから、気をつけてほしいという場面をポスターに描いた。また、ポスターの説明文をそれぞれの保健委員が考えた。給食の時間に3～4人のグループを組み、教室へ出向き、楽しく安全に学校生活を送るためにはどうしたらよいかという趣旨を話し、紙芝居形式で15枚のポスターについて説明しながら啓発活動を行った。

イ 結果と考察

保健委員が話し合った結果、資料3のように「見たら注意する」、「ポスターをはる」、「校舎内ではふざけない」、「教室であばれない」、「廊下は走らない」、「調子が悪いときは遊ばない方がいい」、「よく寝る」、「危ない遊びをしない」、「石や物を投げない」

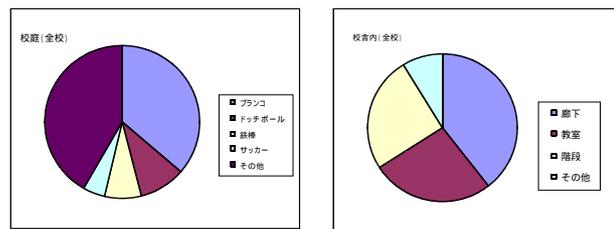
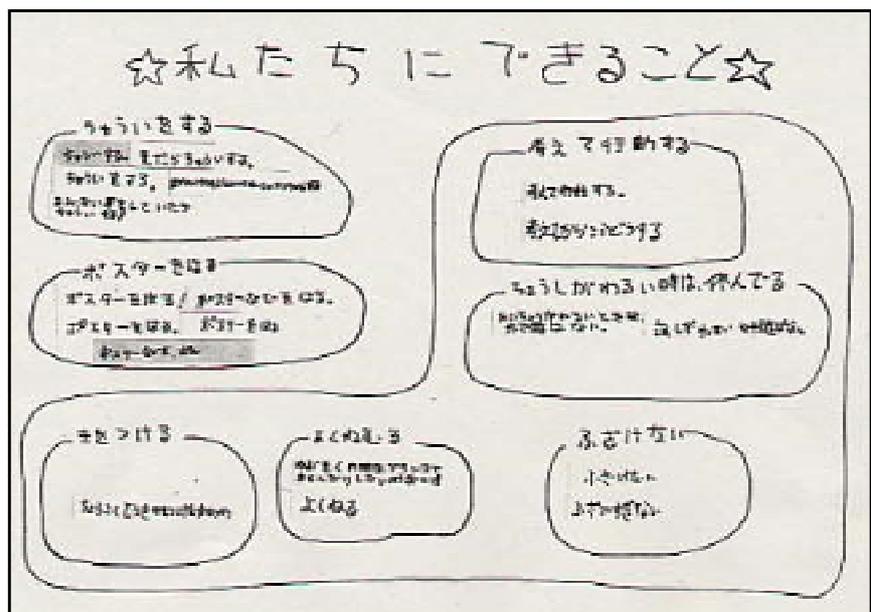


図1 あぶなかつたよカード結果

資料2 あぶなかつたよカードからの情報の一部

頭がちょっと痛くて立ちのりしていて落ちて頭を打った。(高学年)
 ブランコの後ろでおいかけっこをして頭にぶつかりそうになった。(中学年)
 ブランコの後ろに行つてぶつかった。(中学年)
 ブランコでふざけて手をはなしたらおちた。(中学年)
 鉄棒で頭から落ちた。(中学年)
 かさを振り回していた。(低学年)
 水道前の廊下が水でぬれていて友だちにおされてすべって足を切つてぬった。(高学年)
 給食ワゴンをふざけて運転してぶつかりそうになった。(高学年)
 手を洗った後、水を廊下でバツ×3とはらって通った人がすべった。(高学年)
 小刀で指を切りそうになった。(高学年)
 児童玄関で、竹馬をかたづけている時、他の竹馬がたおれてきて、頭にあたった。(高学年)

資料3 保健委員が話し合った結果の一部



「ブランコに乗っている人に近づかない」、「注意して遊ぶ」、「考えて行動する」などがけがを防ぐために大事であることに気づいた。保健委員の児童が思い思いにこれを伝えたいという願いが込められたポスターが完成し、説明文が考え出された。教室では、給食中の和んだ中に、これから上級生が何をしてくれるのだろうという期待が感じられる雰囲気の中で、「こんな行動を取るとこんなけがをしてしまうことがあります！こんなふうにすると防ぐことができます」と呼びかけた。



図2 啓発活動の様子

「あ、あれおれだ!」、「こういうことあった」などの声が囁かれ、自分や友だちを指差す児童もいて、自分たちのこととして考えることができたようであった。事後の感想文では、「これからは気をつけようと思った」と感想を書いた児童が64.8%と最も多く、そのうち、具体的な行動を挙げて「 に気をつける」「 しないように気をつける」と書いた児童が44.0%であった。また、「危ない行動がよくわかった」が26.7%、他に「紙芝居がわかりやすくて、なんか、学校のあんぜんをいろいろまもりたくなってきました」や、「これで、わたしもあまりけがをしなくて、元気に遊べと思います」と感想を書いた児童もいた。感想文を読み、保健委員が「ちょっとしたことで大けがにつながるということがわかってくれてうれしいです」などと啓発を行った学級に手紙を書いた。

児童は紙芝居ととらえ、興味を持ちながら見ることができ、どんな時にけがが起こりやすく、どんなことに気をつければよいかを考えることができた。

- (3) 自分の生活を振り返り、大きなけがをしないように気をつけて生活することができたか。(見通し3)

ア 実践の概要

「ハッピーセーフカード」を使用して、一日の生活を振り返り、自己評価を行い、気をつけられたこと、危なかったことを記録した。保健委員が回収し、カードに賞賛や励ましのメッセージを記入して返却した。

イ 結果と考察

「ハッピーセーフカード」に「教室で歩いたら、机の横に寄りかかっていた子の足が出ていてそれに気がつけたよ!」と記録した児童や、「外に出る時は早く出たくなっちゃって、つい、廊下を走りそうになっちゃった」と記録した児童に対して、保健委員が「 がいっぱいがんばったね!」、「外に出たくなるときは走

資料4 児童の感想文

このかみしばいを見て、学交でまもらなさいいけないことがよくわかりました。一度ほうきをふりまわして人にあたりそうになった事があります。体いくのどかばこはまがあまりかいていないのでどかばこのあんせんはかみしばいを見ていろいろわかりました。これから、お道の戸所に水をこぼさないようちゅういします。それからうろうろかませたいはりません。それに、かみしばいがわかりやすくて、なんか、学交のあんせんをいろいろまもりたくなってきました。それにきょう室をはいたらガラスがかんたんにわれる事がわかりました。

資料5 保健委員が書いた手紙

3年組のみなさん、かみしばいを見て、勉強になりましたか?
 1人1人が書いてくれた感想には、「これから気をつける」や、「かみしばいを見て、とてもおもしろい事が分かった」と、色々な事を書いてくれました。どうもありがとう。これからも、気をつけて読んで下さいね!
 保健委員より

らないようにもうちょっとがまんしよう」などとメッセージを書き入れた。学級担任の観察から、めあてを意識して生活できたようで廊下を走る姿を見ることが少なかったことを挙げた。また、「子どもたちも『廊下を～さんが走ってた!!』と言いに來ることがほとんどなかったと思う」という感想が出された。保健委員が見た行動の変容として「廊下を走らないように気をつけたり、水のみ場ではふざけたりしないようにしている」、「階段を一段ずつ降りている」などが挙げられた。図3のように、けがによる保健室利用者数は昨年度と比較すると、7月以降減少している。これらのことから、「ハッピーセーフカード」は安全に気をつけて生活しようとする態度を育てるために有効であったといえる。

資料6 ハッピーセーフカード

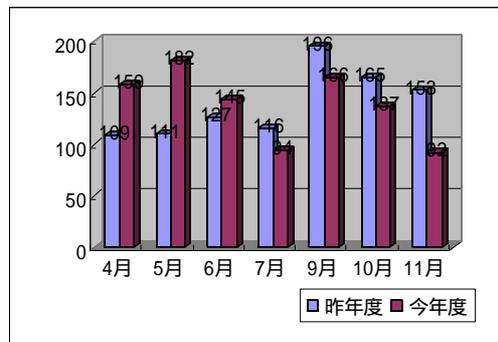
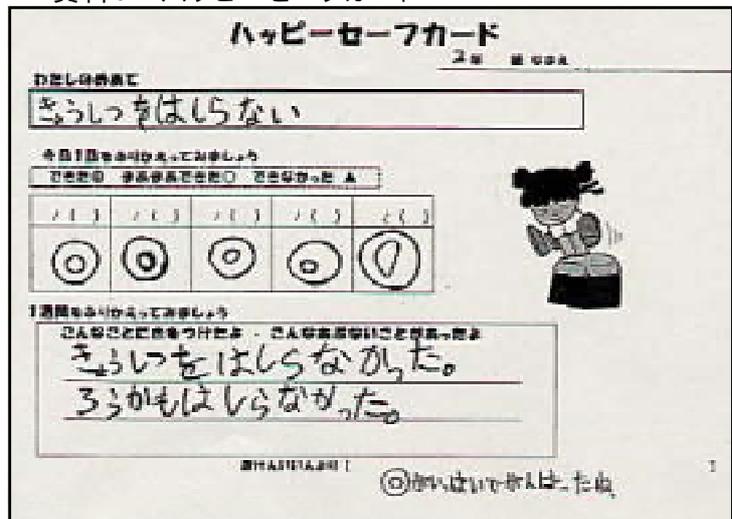


図3 けがによる保健室利用者数

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

- (1) 保健委員会活動において、学校生活の中であぶなかった体験の調査を保健委員が「あぶなかったよカード」を使用して行い、危なかつたという情報を全校児童に知らせたことにより、学校生活を送る中で危険な場所や行動があることに気づくことができた。
- (2) 保健委員会活動において、危なかつたという情報をもとに保健委員が対策を話し合い、視覚に訴えたポスターを作成し、各教室を巡回し、啓発活動を行ったことにより、どんな時にけがが起こりやすく、どんなことに気をつければよいかを考えることができた。
- (3) 「ハッピーセーフカード」を使用して、一日の生活を振り返っていく中で、自己評価を行い、気をつけられたこと、危なかつたことを記録し、保健委員が回収しカードに賞賛や励ましのメッセージを記入して返却したことにより、自分の生活を振り返り、安全に気をつけて生活しようという意識を高められた。

2 今後の課題

今回は「けがの防止」をテーマとし取り組んだが、今後も本校の健康課題に取り組んでいくために、相互交流型の保健委員会活動を継続していきたい。児童自身に問題意識を持たせ、目標を設定し計画を立て、意欲的に活動を行うための支援をさらに工夫していきたい。委員となった児童の特質を理解し、一人ひとりが活躍できる活動を今後も行っていきたい。

参考文献

『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育 文部科学省(2001)